

「原点回帰」

受験シーズンも終盤になった。高校受験も都立高校の第1次および分割前期の検査が終わり、3月1日に合格発表を控えている。全員がこの日を笑顔で迎えられることを願う。中学三年生の皆さんにとっては2回目の学校選択である。中学校に入るときは、公立中学校には必ず自分の席が用意されていた。しかし、高校選択はそうではない。進学を希望する生徒のために総枠では用意されているというものの、高校に入学できるのかという不安はつきまとう。結果が自分の願い通りかどうかは別にして、この経験は人としての成長をもたらしていると思う。

進路選択にあたって、次のステージで何をしたいかを考えたはずだ。多くは高校で何をしたいのか、何でこの高校を選んだかにつながる。推薦試験を受けた人は面接があるので、志望の動機や入学後の抱負、そして将来の夢を考えたいだろうし、面接がなかったとしても、少なくとも志望の動機はあったはずだ。そして、新鮮な気持ちでそのステージに入るときに、何か目標をもって頑張ろうと思うはずだ。

そんな思い、自分にとってのスタート地点、原点を大切にしてもらいたい。そのステージの中で悩んだり、もしかするとやめてしまおうと思ったりすることもあるかもしれない。そんなとき、原点に戻り、本来の意義や目的、もしくは始めようとした時の志などを思い出すことは、いちばんの解決策だと思う。迷ったときは原点に戻る、「原点回帰」が大切である。順調に進んでいる状態では原点回帰することはないだろうが、進み具合がよくないときなどに原点に立ち戻ること、つねにその気持ちを忘れなければ、誤った選択はしないはずだ。

ちなみに、私が東京都の教員に就職するとき、どんな思いだったのか振り返ってみた。2次試験で面接があり、当然、「何で教員になりたいのですか」「教員になったときの抱負は」という質問があった。たぶん、そのとき「数学の楽しさを教えたいから」と答えたような覚えがある。今は直接生徒に数学を教えることはないが、その気持ちは大切にしていきたい。

2月24日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 図のように、 AB と DC が平行な台形がある。上底と下底の長さの比は $2:3$ であり、点 E は AD を $AE:ED=2:1$ に分ける点です。三角形 ABF の面積は元の台形の面積の何分のいくつでしょうか。

